



埼玉の 建築スケッチ ケツチ 原画展

2022年
3月19日(土)~24日(木)

11:00~18:00 (観覧無料)
埼玉会館 第1展示室

青山恭之が埼玉新聞に掲載した「埼玉の建築スケッチ」、連載中の「続・埼玉の建築スケッチ」の原画を、県内全ての市区町村から1枚ずつ+αで78枚展示します。

関連フォーラム「まち・みち・たてものを、愛でる・いじる・生かす」
3月20日(日)16:30~18:30 埼玉会館大ホール
詳細は裏ページ ▶

旧本庄商業銀行火庫
2020/02/29

フォーラム

まち・みち・たてものを、 愛でる・いじる・生かす

2022年
3月20日(日)

— 浦和から埼玉への視座 —

16:30～18:30 (聴講無料、定員300名)
埼玉会館 大ホール

関連展示；埼玉の建築スケッチ原画展
3月19日(土)～24日(木) 同館第1展示室

まちを歩いていると、ある区画がすっかり更地になっているのに出会うことがあります。その場に佇んで、記憶の一部が歯抜けになったような感覚を覚えるのですが、そこに以前どんな建物が建っていたのか思い出せないことがしばしばです。思い出せないということは、意識したことがないのだろうとそこを離れて歩き出すのですが、その喪失感は、以外と長く脳裡に居座るのです。

そんな時思うのは、自分の暮らすまちやみちの風景は、無意識の領域に大きなヴォリュームを占めていて、意識されるのは氷山の一角のようにほんの一部なのかもしれないということです。

浦和のまちにしる、埼玉県にしる、現実のまちは経済活動によって日々変化をし続けています。その中で、自分の心の礎に関わるような風景は、何とか残ってほしいと思うのではないのでしょうか。

ここでは、今ある風景のなかで無意識の見過ごしていたものを意識し直す作業や、それらに何らかの手を加えることを通じて共有していく試みを紹介します。3者それぞれの取り組みを通じて、心の中のまちも豊かに保つヒントが得られることを願っています。(青山恭之)

主催：公益財団法人 埼玉県芸術文化振興財団
後援：埼玉新聞社
協力：美術と街巡り・浦和実行委員会

埼玉会館
SAITAMA HALL



パネリスト

青山恭之(建築家、アトリエ・リング)

浦和建築塾から、「埼玉の建築スケッチ」へ

山海隆弘(埼玉会館シニア・アドバイザー)

「埼玉会館」の取り組み

若林祥文(NPO法人都市づくりNPOさいたま
副理事長)「訪ねたい場所・使い続けたい建築」

司会

松永康(アート・コーディネーター)

「美術と街巡り・浦和」

〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-1-4

Tel:048-829-2471(代) Fax:048-829-2477

<https://www.saf.or.jp/saitama>

電車でのアクセス JR 宇都宮線・高崎線・京浜東北線・
湘南新宿ライン 浦和駅(西口)下車 徒歩6分

会場内外でのご注意 新型コロナウイルス感染拡大防止について

- 37.5度以上の発熱がある方、体調が優れない方は、ご来場をお控えください。●ご来場の際は、マスクの着用、手指消毒、検温のご協力をお願いします。
- 会場にてお名前・ご連絡先の記入をお願いします。来場者の情報は、必要に応じて保健所等の公的機関に提供する場合があります。
- 感染の拡大状況により、開催内容が変更になる場合があります。最新情報は埼玉会館のホームページをご覧ください。